

6 本時の指導 (2 / 7 時)

1 ねらい

具体的な場面の考察を通して、乗数が1増減すると積が被乗数分だけ増減することが分かる。

2 展開

	ねらい	学習活動の展開	指導・援助						
つかむ	本時の問題をとらえる。	問題提示 チャ - ちゃんとレンジ君は、7の段の九九をいって、7×6の答えだけを忘れてしまいました。あなたが先生になって、2人が答えを見つけられるように、答えの見つけ方を教えてあげよう。	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心をもてるよう、かけ算の答えを忘れた友だちに、答えの求め方を教えてあげるという場面を設定する。 個人追究に入る前に全体で、問題場面をつかみ方法に対する見通をもつ場を設ける。 						
考える	解決の見通しを持つことができる。 課題内容を把握し、興味・関心をもつことができる。 自分の考えをもつことができる。 かけ算の意味から、自分なりの方法で7×6の答えの見つけ方を考えようとする。	見通しをもつ <ul style="list-style-type: none"> 問題の状況をつかむ(答えではなく、答えを求める方法を考える) 方法に対する見通しがもてそうか確認 課題提示 7×6の答えの求め方を考えよう。							
深める	自分の考えを公表することができる。 仲間の考えを学びあうことができる。 図は説明には有効な方法であることに気付く。 7×6の答えを見つける方法が他の数の場合でもいえることがわかる。	個人追究 7×6は、7が6つ分だから	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを書き、説明するためにB3版紙を配布する。 個人追究開始3分ほどたち見通しがもてない子に対して指導援助を行う。 問題の意味の確認 ヒントカード準備 アレイ図 既習学習内容 自分の考えをもった子に対しては、他の方法で求められないか投げかける。 いくつもの方法で答えが求められた子に対しては、自分の考えの分かりやすい説明の仕方を考えさせる。 それぞれの考えの妥当性を吟味し、一人一人の考えを位置付ける。 の方法(交換法則)が成り立つ理由については、次時にくわしく学習する。 図は説明には有効な方法であることに気付かせる。 						
まとめる	乗法の決まりを理解することができる。 学習のふり返しをする。 ・自分が分かったこと、感じたこと ・使った考え	図 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td rowspan="3">図</td> <td>数を数える</td> <td>7×6の答えは、7×5の答えより7多いから 7×5+7で42</td> </tr> <tr> <td>たし算 7+7+7+7+7+7=42</td> <td></td> </tr> <tr> <td>かけられる数とかける数を入れかえて計算 6×7=42</td> <td>7×6の答えは、7×7の答えより7少ないから 7×7-7で42</td> </tr> </table> 集団追究 かけ算の答えを忘れたときに答えを出す方法を発表する。 ・図を使って説明すると、どの方法もわかりやすい。 ・簡単で、はやく、分かりやすい方法を確認する。		図	数を数える	7×6の答えは、7×5の答えより7多いから 7×5+7で42	たし算 7+7+7+7+7+7=42		かけられる数とかける数を入れかえて計算 6×7=42
図	数を数える	7×6の答えは、7×5の答えより7多いから 7×5+7で42							
	たし算 7+7+7+7+7+7=42								
	かけられる数とかける数を入れかえて計算 6×7=42	7×6の答えは、7×7の答えより7少ないから 7×7-7で42							
		はかけ算の決まり かけ算の答えは、前の答えに7をたせば求められそう。8の段はどうか。 8×5=40と分かっている8×6? 8×6=8×5+7=47 × 8×6=8×5+8=48 8の段は、8ずつ増加 9の段は、9ずつ増加							
		まとめ かけ算では、かける数が1ふえると、答えはかけられる数だけふえ、かける数が1へると、答えはかけられる数だけへる。							
		練習問題 「学習をふり返って」を書く。							

--	--	--	--